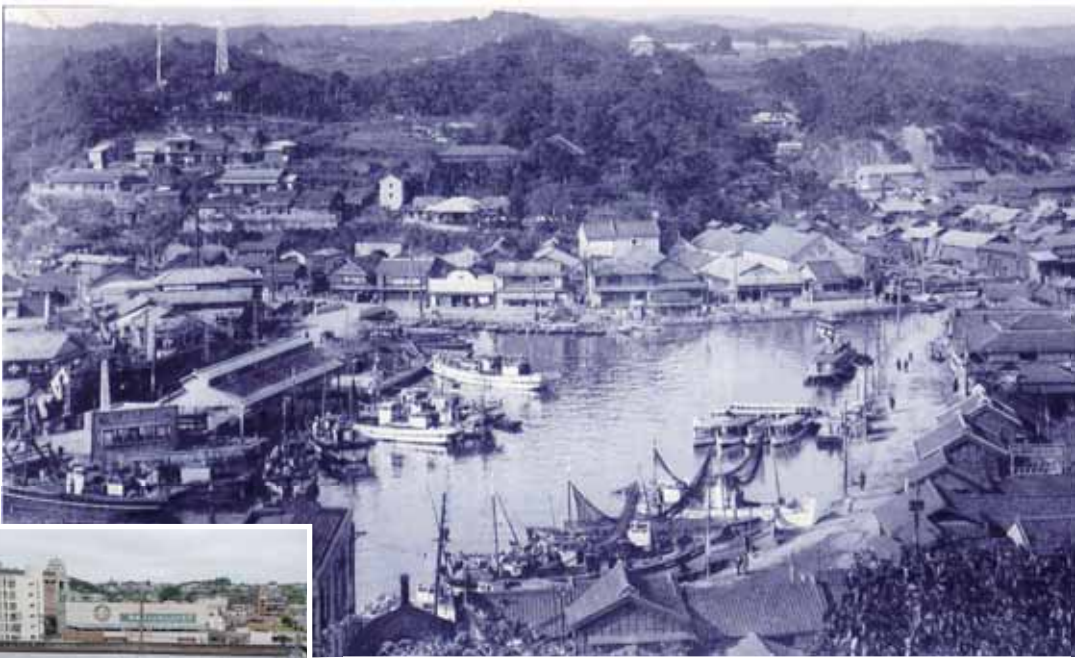


塩竈の歩み



▲市制施行当時の塩釜港と街並み
▲現在の写真（海岸通周辺）

1941年(昭和16年)11月23日、県内で3番目の市制施行となる塩竈市が誕生し、今年で80年目を迎えます。

80周年にちなみ、市民の皆さんによって築き上げられてきた歴史をたどる特集を毎月掲載します。

市章のデザインに
込められた意味とは



全国より応募された2,896点から選ばれた作品です

お馴染みの塩竈市の市章(市のマーク)ですが、そのデザインの意匠はご存知でしょうか。

市章は市制施行を記念して、当時の東京日日新聞により募集され、昭和17年に選ばれました。作者は京都市の凶案家 西澤彌一郎さん(当時28歳)です。

デザインは、円を描く黒潮から朝日が昇り、伸び行くみなとまちを表現したものでした。

当時の同新聞に掲載された西澤さんのコメントでは「塩竈市は未知の土地です。地図を調べ絵葉書をとりによせ市の状況を心に描きました。なるべく簡単に技巧に走りすぎないよう注意しました。入選したことは誠に光栄です、塩竈市の躍進を心から祈っております」と感想を残しています。

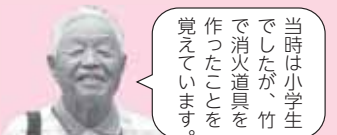
しおがまの昔・懐かし

思い出写真館 ②②

塩竈市80年の歴史を振り返る



写真は市制施行から2年後の昭和18年に撮影された宮町の風景です。当時は太平洋戦争の戦時下であったため、空襲に備えての防火訓練が住民総出で行われたそうです。



写真提供者 佐藤健太郎さん(87歳)



現在の同じ場所(宮町)